地域と連携した実践的工業技術の推進

　　○〇県立●●工業高等学校

教諭　山田　太郎

１． 研究の目的（研究の背景、目的、および重要性を簡潔に記載します。）

　現代社会においてAIやデジタル技術が急速に発展する中、学校教育では基礎的な学びだけでなく、地域社会との連携を通じた実践的な技術や考え方を習得することが重要性を増しています。本研究では、生徒と地域住民が一体となり、地域社会における具体的なニーズを抽出し、それに基づいた実践的な工業技術を活用する取り組みを行いました。

具体的には、地域で必要とされる「夜間の常備灯」をテーマとし、その実現に向けた研究を通して、生徒たちが横断的な学科の連携と技術活用の力を学ぶことを目的としました。

２． 研究の概要（研究組織、研究の手法と日程計画、主要な活動内容について記載します。）

（１）研究組織

　　　本研究では、生徒主体の活動を基本とし、学科を超えた横断的なチームを編成しました。また、

　　地域住民や関係団体の意見を反映させるための協議会を設置し、継続的な意見交換を行いました。

　・・・・具体的な組織図

（２）研究の手法と日程計画及び活動内容

　　研究は以下のスケジュールに基づき実施しました。

　5月：研究テーマの具体化と地域住民との打ち合わせ

　6月：校内組織の編成および役割分担の明確化

　7月：学科別の研究課題の設定

　　　　土木科：夜間灯設置場所の選定と設置方法の検討

　　　　機械科：オリジナル夜間灯の設計・試作

　　　　電気科：電力配線や安全性に関する研究

　　　　電子科：ソーラーパネルの設置および運用研究

　　　　情報科：自動点灯システムの開発

　8月～11月：実践研究および成果物の制作

　　　　試作品のテストと改良

　　　　地域住民への中間報告とフィードバック収集

・・・

３． 研究成果の分析と考察（実践結果について考察します。）

　研究成果を写真や図表を用いて視覚的にわかりやすく解説します。例えば、以下の点について詳細に分析しました。

　地域住民からのフィードバック

　夜間灯の設置による安全性向上の実感

　実際に役立つ技術への期待感

　生徒の成長

　複数の学科が協働することで得られた新たな視点

　問題解決能力や実践的なスキルの向上

　また、プロジェクトを振り返り、成功点および課題点を整理し、改善点を明確化しました。

・・・

・・・

４． 今後の課題と展望（研究で明らかになった課題や、今後進めるべき方向性について説明します。）

　本活動を通じて、以下の課題が明らかになりました。

　地域との連携強化

　地域ニーズをより正確に把握するための調査手法の改良

　生徒育成の更なる充実

　実践を通じた課題解決能力の深化

　持続可能な技術開発への取り組み

　これらを踏まえ、次年度以降は、さらなる技術的挑戦と地域貢献の拡大を目指した新たなプロジェクトを企画していきます。

・・・・

　　特に生徒の育成という面を中心に考え、今回の活動をどのように生かしていくのかを記載する。

　また、更に今回の活動を発展させるために何が必要かを考え、学校としての方向性について記載する。

謝辞

　本研究を遂行するにあたり、△△様より多大なご支援を賜りました。深く感謝申し上げます。

参考文献・引用文献

　　報告書が公表されることを考慮し、参考文献や引用文献は必ず明記してください。

・・・